UNITE FOR GOOD

Rotary MATSUMOTO EAST

２０２５－２０２６年度会報
会長／村山智計　幹事／吉池裕一

2025. 12. 12. №18 通算№1893

事務所／松本市深志 1-1-21　中田歯科ビル 5F
TEL：0263-36-7737　FAX：0263-36-6009
例会場/ホテルブエナビスタ　例会日/金曜日 12:30

委員長/福田雅春
副委員長/北澤清隆　委員/土屋久
籾山志基　百瀬敏男　太田隆治

1月2日(金)の予定
休会（クラブ定款）
1月9日(金)の予定
新春夜間例会

通常例会　ホテル・ブエナビスタ
司　会　浅川雅史会場監督委員
点鐘　12:30　村山智計会長
ロータリーソング「四つのテスト」　斉唱
【ゲスト】長野県立こども病院　血液腫瘍科部長
坂下　一夫様　第１病棟看護師長　村山　優子様

会長挨拶　村山会長

本日は、長野県立こども病院血液腫瘍科 部長・坂下一夫様に卓話をお願いします。こどもたちの命と日々向き合う医療の現場からお話を伺えることは、私たちにとって大変貴重であり、心より感謝申し上げます。また本日は、私の妻でもある第１病棟看護師長・村山優子様にもご来訪いただきました。お二人には、日頃より地域医療を支えていただいており、本日の例会にお越しいただけましたことを大変ありがたく思っております。

ロータリークラブでは 12 月を「疾病予防と治療月間」と定めております。本日はこの月間の趣旨を踏まえ、医療の最前線でご活躍されるお二人をお招きしております。この機会に、ロータリーがどのような理念のもと、どのような国際的奉仕活動に取り組んでいるのかを簡単にご紹介したいと思います。ロータリーの理念の中心にあるのは、"超我の奉仕(Service Above Self)"、すなわち「自分のことよりも、まず人のために尽くす」という考え方です。また、行動の指針として「奉仕の理想」「職業倫理の重視」「国際理解と平和の促進」などが掲げられており、これらの理念にもとづいて世界中のロータリアンがさまざまな活動を続けています。その国際的な取り組みの中でも、特に象徴的なのがポリオ根絶運動(End Polio Now)です。1985 年にロータリーが世界に先駆けてポリオ根絶を掲げて以来、WHO やユニセフ、各国政府と協力しながら、ワクチン接種の推進や医療体制の支援を続けてきました。その結果、世界のポリオ発症数は当初から 99%以上減少し、撲滅が目前という段階にまで至っています。「一人の子どもの命を守る」という思いを世界中の会員が長年にわたり行動に移してきた成果であり、ロータリーの理念を象徴する活動でもあります。

医療と奉仕は、どちらも社会を支える大切な柱です。本日の坂下様の卓話は、私たちにとって大きな学びとなると確信しております。会員の皆さまには、ぜひ関心を持ってお聞きいただき、今後の奉仕活動を考えるうえでの一助としていただければと思います。

幹事報告　吉池幹事

１．次回例会は、夜間例会クリスマス家族会です。会場はアルピコプラザホテルです。
２．１月９日は新春夜間例会です。１２月２５日の締め切りに間に合うよう返信をお願いします。
３．例会変更は、引き続き現在どのクラブでもビジター受付は実施されていません。ご了承下さい。

出席委員会報告　高木委員
本　日 12 月 12 日　欠席 10 名　出席率約 66.67%

ニコニコＢＯＸ報告　舘島委員

・坂下様、村山様、本日はようこそお越しいただきました。よろしくお願い致します。村山会長
・カレンダーをお持ち下さい。浅川君
・坂下様、村山様、本日はよろしくお願いします。吉池君
・次週アルピコプラザホテル 3F ミヤビエにてクリスマス家族会です。よろしくお願い致します。小畑君

〔夫人誕生〕北澤君、小笠原君〔結婚記念〕小笠原君
〔何となく〕舘島「君〔本日早退〕百瀬正容君
〔写真掲載〕百瀬正容君、北澤君

☆☆☆　本日のプログラム　☆☆☆

司会　永田プログラム委員

【ゲスト講話】
「疾病予防と治療月間特集」
長野県立こども病院
血液腫瘍科部長　坂下　一夫様

みなさんこんにちは。まず最初に、小児がん啓発月間の今年 9 月、松本城をゴールドにライトアップするゴールドセプテンバーキャンペーンへのご協力、本当にありがとうございました。おそらくこの活動はずっと続いていくと思いますので、また機会がありましたらよろしくお願い致します。

今日は主にがんついてお話させていただきたいと思います。死因のトップはがん、その次は心疾患です。年代別

にみると、40代以上でがんで亡くなる人が多くなります。10歳から30代までは一番多いのは自殺です。皆さん経営者の方も多いかと思いますが、働いている従業員の心のケアもがんと同じくらい大変重要になってきていると思います。

日本人ががんと診断される確率は二人に一人というデータも出ています。年齢別には50歳からが増えています。特に男性は前立腺がんなどが多く、それより前は女性の方が多く、女性特有の乳がんや子宮頸がん多いという状況です。1980 年代以降、死因の第一位はがんで三人に一人はがんで亡くなっており死亡数は増え続けています。とても怖いと思いますが、考え方によっては三人中二人は治っているということになります。医療の進歩はすごいので今後その率はもっと上がると考えられます。

例えば前立腺がんの 5 年生存率は 99%です。乳がんも91%でしっかり治療すれば治ります。これからもどんどん生存率は上がっていきます。なぜかというと、新しい薬が開発されていて、特にこの5年間はどんどんいい薬が出てきています。特にがんのゲノム医療、遺伝子検査の方がとても進歩しています。がんの細胞を調べることによって、それに合う治療法を選択できる時代になってきています。

ですが、いい薬は高いです。国の予算の三分の一は、社会保障費、医療費に使われており、特に高齢者に多くの医療費が使われています。良い薬を飲むことによって、がんになったとしても身体が楽になる、いい生活が送れることになります。その薬が高かったとしても、最後まで自分らしい生活が出来るようになる。そのお金をだれが負担しているかというと、若い人たちが一生懸命働いた税金などから支払われているという状況です。この医療体制が持続可能かというと、厳しいものがあると思います。今後考えていかなければならない時代になってきていると思います。

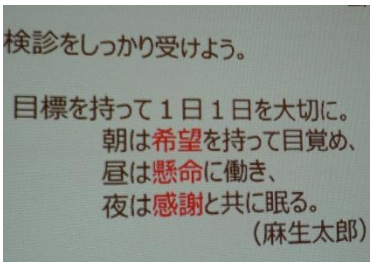
がんの原因はわかっており、加齢、生活習慣、細菌ウイルス、遺伝的要因の 4 つです。がんは最初の遺伝子変異が起こってから、目に見える大きさになるまで 10 年かかると言われています。そこから転移するなど大きくなるのは 1、2 年です。なので小さいうちに見つける、早期発見早期治療が大切です。検診をしっかり受けて下さい。また生活習慣も大きく関わります。喫煙・飲酒・食生活・運動不足、このようなことが密接に関連しています。ちなみにこの生活習慣は、先程の心疾患とも大きく関わります。本当に大切な事なので、日々考えて生活していただけたらと思います。

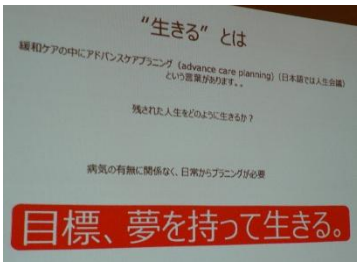
小児がんは私の専門ですが、現在ではとても治りやすくなってきています。1975 年頃には半分の生存率だったのが、2000年代には80%位、最近はいい薬も出ており、5年前の白血病の臨床試験では 95%だったのがさらに数%上がっていると思います。私が子供病院に来てから 12～3年ですが、51 例の患者さんが亡くなっています。年齢は 1歳から 18 歳、多い少ないはとらえ方によって違うと思います。一番多いのは脳腫瘍です。

中高生に告知について尋ねると、ほとんどの人が本当のことを知りたいと手を上げますが、命にかかわることだと半分になります。実際には、余命何ヶ月という言い方でなく、病気を治すことが難しくなってきたことを伝えています。早く伝えることで、充実した時間を過ごして欲しいと考えていますが、実際親御さんの考え方やいろいろな問題もあり難しいのも現状です。

生きるということはどういうことか。ACP アドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning）日本語では人生会議と言われていますが、残された人生をどのように生きるかということに重きがあります。小児も同じでなるべく目標や希望をかなえてあげたいと思い話し合いをします。

考えてみれば、病気の有無に関係なく日常からどう生きるかというプランニングは必要です。一日一日を大切に生きることを子供から教えられます。がんを正しく理解し、これからの社会を背負っていかなければならない皆さんの命をしっかり守っていかなければなりませんし、目標をもって毎日を大切に過ごさなければ、と思っています。





【点鐘 13：30】 **村山会長**

✿ 今週の笑顔さん ✿